

関係各位

J F Aは 2006 年度に登録される全審判員に“グリーンカード”を配布します(2006 年度審判証に添付)。既に、2004 年度より U-12(4 種)年代以下の各種大会、試合において“グリーンカード制度”を導入しておりますが、以下の導入趣旨及び提示方法をご理解頂き、グリーンカードが更に多くの大会/試合で活用されるようお願いいたします。

## <グリーンカード制度の積極的導入に関して> \* 2004/9/2 発信

### はじめに

サッカーは人生の学校です。この素晴らしいゲームは、楽しいばかりでなく、感情を呼び起こすものです。負けた時には悲しみと涙、勝ったときには歓びと祝祭。サッカーは教師です。サッカーは少年少女に人生の徳と価値を学ぶ機会を与えます。

- ・ チームとしてともに努力すること
- ・ フィールド上で互いに助け合うこと
- ・ 常にフェアプレーを示すこと
- ・ 良いスポーツマンシップを示すこと
- ・ 怪我をした者を助け共感を示すこと
- ・ 敗者も勝者も称えること
- ・ 対戦相手、チームオフィシャル、レフェリーに敬意を払うこと

これらの価値感全ては家庭や共同体のメンバーの中での日常生活にもあてはまるものです。サッカーは、プレーヤーの身体面、社会面、心理面の要素の発達を助けます。

### ゲーム

世界中で毎日ひっきりなしに、無数の試合がプレーされています。その大多数は楽しみのためのものです。レフェリーは、試合のルールの手番です。レフェリーは、ルールが尊重され全員がゲームを楽しめるようにします。

### イエローカード、レッドカード

現在、レフェリーにはイエローカードとレッドカードを使って、その行為がルールにどの程度、違反しているということをプレーヤーに伝えることを任務として与えられています。これらのカードは、ある特定の選手等のネガティブな行動が、フェアではなく、どの程度許されないか、ということを説明するために示されるものです。レフェリーはそれらを示し、フィールド上で 22 名のプレーヤー全員に対しフェアとなるように努めています。

### ポジティブな教育

子どもたちがサッカーを始めたときから、我々は彼等にスキルを教えるとともに、「してはいけないこと」も教えます。時として、トレーニングや試合ではいけないことの方に注意が払われることが見受けられますが、彼らがポジティブなことをしたら賞賛や感謝を示すべきです。

これが、グリーンカードの背景にある考え方です。グリーンカードの意味は以下の通りです。

- ・ それは良い行動である。その調子で続けなさい。
- ・ ポジティブな行動を再確認、再強化する。
- ・ ポジティブな教育である。
- ・ 認め、感謝し、もっとやるよう励ます。
- ・ 他の人が見本とすべき手本である。
- ・ ファンやオフィシャルもあなたの行動を認め評価している。

### グリーンカードはどのようなときに提示するのか

レフェリーは、グリーンカードを示すのに、プレーを止める必要はありません。ボールがプレーエリアから出たら、あるいはその他の理由でプレーが止まったら、すぐにカードを出せばよいのです。レフェリーは、プレーヤーのポジティブな行為を認めるしるしとして、ポジティブなジェスチャーを示すことが奨励されます。

以下は、グリーンカードを出す状況の例です。

- ・ 怪我をした選手への思いやり
- ・ 意図していないファウルプレーの際の謝罪や握手
- ・ 自己申告(ボールが境界線を出たとき: スローイン、CK、GK、ゴール)
- ・ 問題となる行動を起こしそうな味方選手を制止する行為
- ・ チーム(オフィシャルを含む)が試合全体を通し、警告も退場も受けず、ポジティブな態度を示す。(レフェリーは試合終了の笛を吹く際に、チームベンチに向かってカードを提示する)

**JFA は、U-12(4種)年代以下の試合において、グリーンカードの積極的活用を奨励します。**